

# デザイナー志望若者、石川の繊維企業見学

# 「金の卵」引き寄せ



若手デザイナーの発掘を目指し、金沢市などが10月に開く「金澤ファッションコンペティション2013」。最終審査に残った24の個人・チームが19日、石川県内の繊維工場などを視察した。参加者は服飾デザイナー志望や、既にアパレル業界で活躍する将来の有望株であり、歓待の背景には「金の卵」を引き寄せたい石川の繊維業界の狙いもろく。

(藤澤瑛子)

午前10時。七尾市の南部工業団地にある丸井織物(石川県中能登町)の工場に参加者がやって来た。奇抜な髪型に大きなピアス、細身のデニムやワンピースを合わせたカジュアルなファッションが目を引く。どこかな能登の景色よりも、渋谷か新宿の雑踏が似合う若者たちだ。

## 平均年齢26歳

コンペを運営する繊維リソースいしかわによると、今年は婦人衣料部門に113点、スポーツウエア部門に42点の応募があり、1次審査通過は各12点。平均年齢は26歳で、東京や大阪の服飾系学生やアパレルデザイナーが多い。

一行はまず、丸井織物の古澤久良常務兼開発・営業部門長の案内で、織布の前工程となる縦糸の準備作業を見学。スマートフォンで



①織布の前工程を見学し真剣に説明を聞く参加者  
—七尾市の丸井織物工場  
②一流ブランドも採用する新開発素材に目を輝かせた  
—能美市の小松精練

盛んに写真を撮りながら、熱心にメモ帳にペンを走らせる。本社工場でウオータ(ジェットルーム)の織布作業者、テキスタイルスタジオで同社素材の説明をそれぞれ受け、この視察の目玉へ。産地企業からの素材提供タ

ームが始まった。10月12日の最終審査では、1次審査のデザイン画に基づき制作した作品でファッションショーを行う。この作品制作に使う生地の一部を希望者に無償提供することで、石川産地の高い技術力を実感してもらおう狙いがあるのだ。

「これ良くな〜」「こっちも使えそう」。丸井織物が得意とするスポーツ用薄地素材を手に、発色や質感を確かめる参加者。これがきっかけで将来、うちの生地を使う人になってくれればありがたいね」。古澤常務も目を細める。

一行は引き続き小松精練(能美市)を訪問。同社が手掛ける染色や後加工の説明を受け、一流ブランドに使われた商品を紹介されると歓声が上がった。ここでも欲しい生地をピックアップして視察は終了した。

「私のデザインでオリジナルプリント生地は作ってもらえますか」「このラミネート加工をニット生地に

## 10月のコンペ 素材を提供、技術力アピール

ンペの範囲にとどまらない質問も。目を輝かせる参加者の表情が印象的だった。「生地が実際に作られる工程を見れたり、合繊でも麻や綿のような風合いにできたりすると知って、すごく勉強になった」と語るのは大石美和さん(24)。「神奈川県相模原市」。クラシックバレエの衣装デザイナーとして働いており、自分の感性を見つめ直すため応募した。「ターゲットや販売方法など商業的なブランドデイングが求められるコンペは珍しい」という。

### 「石川は先端」

昨年、婦人衣料部門の大賞に選ばれたオンワード樫山(東京)のパタンナー、大脇幹裕さん(26)。「金沢美大出身」は、今年は紳士のスポーツカジュアルでグラウンプリを狙う。「石川の合繊は世界の先端だと思っ理想に近い素材が見つかった」と力を込める。

繊維リソースいしかわ社長の伊藤靖彦(繊維協会長)は「商業に近いコンペとして繊維業界での地位を確立し、石川の繊維産業の底上げにつなげる」と意図を語る。「金の卵」たちが石川の素材でどのような世界を表現するのか。最終審査が待ち遠しい。